

代表質問通告書

令和2年3月定例会

1 番 会派 みらい21 長谷川 知 司 議員

1 令和2年度施政方針について

(1) 市政3年間を担ってきたの総括を聞く。

ア 3年間の総括から分かってきた課題はどのようなものがあり、どのようにするか。

イ 少子化・高齢化が進む中、各種関係団体・企業は様々な取組を行っている。これら団体と一緒に、あるいはリーダーとして行政の果たしていくべき役割を聞く。

(2) 子育て世代から選ばれるまち推進プロジェクトについて聞く。

ア 子育て総合支援としてだけではない、スマイルキッズの多目的な活用や地域サテライトはないのか。

イ 女性の就労支援推進を聞く。

国の施策だけでなく、本市の男女共同参画への取組としての独自の施策はないのか。

ウ 教育環境整備の推進を聞く。

学校適正規模・適正配置基本方針の進捗やいじめ対策

(3) 魅力ある山陽小野田市とするには

総花的な施政方針であり、市長が特に推進していきたい施策が見えない。山陽小野田市が、特化して進むべき方向はどうあるべきかを聞く（教育、文化、産業、観光、福祉、医療、スポーツなど）。

2 番 会派 令和 笹 木 慶 之 議員

1 令和2年度施政方針について

(1) 第二次総合計画の「前期基本計画の集大成の年」と位置づけられた行財政運営について

ア 基礎自治体全ての政策は市民の生活につながっている。市民が実感できる事業の推進が重要である。これまでの取組の評価と課題、及びその責任を踏まえた今後の政策展開の方針について

イ 健全な行財政計画の推進と確実な行財政運営の取組について

- ウ 積極的な財源確保と、事業の「集中と選択」について
- エ ふるさと納税を活用した事業の取組について
- オ 行政サービス向上に向けた人材育成及び組織力の強化について
- (2) 住み続けたい・住んでみたい・もっと住みよいまちづくりについて
 - ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の第一次の実績検証と第二次の取組について
 - イ 安心・安全なまちづくりについて
- (3) 地域経済の活性化について
 - ア 地場産業の評価と育成について
 - イ 未来に向けた企業誘致及び新産業の起業育成・拡大について

3番 会派 新政会 松尾 数則 議員

1 令和2年度施政方針について

- (1) 任期の最終年に当たる市長の思いを今年度の施策に何を浸透させたいのか、浸透していくのか、今年大きく成長させたいもの、新たに種をまくものは何か。
- (2) 新時代の市長に必要な経営感覚と強い統率力をこれからのまちづくりの基本姿勢である「協創」にどのようにいかすのか。
- (3) 第5世代移動通信システム（5G）の商用サービスがスタートすることになり、人口減少、教育、働き方改革等の問題解決を期待されている。RPAの導入などスマート自治体として今後何を目指そうとしているのか。

4番 会派 明政会 伊場 勇 議員

1 令和2年度施政方針について

- (1) 住みよい暮らしの創造について
 - ア 市長が大切にしてきた「個人や団体が一緒になってまちづくりを進める仕組みづくり」について、これまでの実績と今後の展望について問う。
 - イ 協創指針を策定する効果について問う。
- (2) スマイルエイジングについて
 - ア 「市民の健康寿命の延伸に向けて大きな成果を上げたい」とあるが健康寿命の延伸で期待できる効果について問う。
 - イ 総合計画にも評価指標である健康寿命を令和3年までの前期目標として延伸させるとある。目標や成果を数値で表さないことについて考

えを問う。

(3) 地域の特性を活かしたまちづくりについて

ア 商店街活性化の支援について、それぞれの商店街の地域性を特化し大型商業施設との差別化が必要であると考えが本市の考えを問う。

イ 農業振興について、新規就農者支援や担い手支援の事業で一定の効果は理解できるが、現状は小規模農家がほとんどであり、今後はその小規模農家が減少し、あらゆる場所で荒れ地が増加し、美しいふるさとの景観が失われていくことが予想される。ふるさとへの愛着が離れてしまう危険を感じるが、小規模農家を守る観点と抜本的な改革が必要ではないか考えを問う。

(4) 子育て支援について

利用者が増加している子育て支援の拠点「スマイルキッズ」の更なる機能強化に向けての考えを問う。

(5) スマート自治体、スマートシティについて

今後の社会情勢を鑑みれば、スピード感をもって研究課題として取り組み、実践につなげるべきと考える。今後の方向性と令和2年度の取組について問う。

5番 会派 市民ネット 矢田松夫 議員

1 令和2年度施政方針について

(1) 前期基本計画の集大成について

ア 財政基盤が軟弱ではないか。

イ 前期2年が勝負の年と言われたが「芽」が出たのか。

ウ 協創により住みよい暮らしの創造に「成果」が出たのか。

(2) 市長のリーダーシップについて

相次ぐ事案の先頭に立ち、市民の信頼を勝ち取るべきではないか。

(3) 職員の資質向上も大事だが、市役所で働く全ての職員の労働条件改善を果たすことが先決ではないか。